

海外留学の展望

佐取永基氏へのインタビュー

Karen Yabuno

佐取永基氏は、海外の大学院でキャリアアップを目指す留学生を支援する Affinity English Academy (AEA) Tokyo の副校長である。また、東洋英和女学院大学・国際社会学部の非常勤講師も務める。彼は、カレッジ・オブ・ニュージャージーで日本語教育と英語教授法の修士号を取得後、ニューヨーク州シラキュース大学で教育学博士号を取得した。その後、(株)アルクで国際教育プログラムのプロデュースを経て、2001年から、アゴス・ジャパンで MBA, LL.M.などの留学準備指導や学校情報データベースの作成に携わってきた。AEA には、2012年より参画する。

このインタビューは、2014年10月に電子メールによって行われた。

最初に留学に興味を持たれたのは、どのようなことがきっかけでしたか？

これまで私は「成長したい」という願いを一貫して持ち続けてきました。周囲の友人と同じ道程を歩むことに幾度となく違和感を覚えたこともあります。そうした意識が、やがて私を留学の道へと後押ししてくれのだと考えます。

留学先での経験について教えてくださいませんか？

私の留学経験を語る上で、ニューヨーク州のシラキュース大学、そしてカレッジ・オブ・ニュージャージーでの体験は欠かせません。そこで得た経験が、その後、私がグローバル教育分野でキャリアを積んでいきたいと考えるベースとなっています。大学院時代は、識字能力開発を目的とした中学、高校で展開される英語指導法の研究に従事しました。また、地元や国際舞台で活躍する言語教育の専門家との交流は、私の日本語と英語に関する文化や言語学的問題を比較分析する上で、とても役に立ちました。

現在、副校長をされる Affinity English Academy の背景を教えてくださいませんか。他の留学を紹介する組織とは、どう違いますか？

2007年に野口哲也氏が創設した Affinity English Academy で10名のメンバーと共に、留学希望者を対象にした出願指導プログラムの運営をしています。当学院の大多数の受講生は、MBA(経営学修士)や LL.M.(法学修士)、更にはその他の専門修士課程(文学修士、理学修士、教育学修士)や博士課程(Ph.D.)等のプログラムへの留学希望者です。

当学院の指導方針は、「受講希望者に対し留学自体を押し付けないこと」を軸としています。(社)日本産業カウンセラー協会より認定されたキャリア・コンサルタントでもある私は、そうした方針を推進するため、に“ライフキャリア・カウンセリング”という独自のプログラムを提供しています。つまり、私はアドミッションズ・カウンセラーでもあり、時としてキャリア・コンサルタントの役目も担います。大学や大学院に出願するエッセイには、出願者の留学目的や留学後の目標を明確に書き記さなければなりません。留学に必要な

なテスト（TOEFL, IELTS, GMAT や GRE）の対策に注力する前に、留学そのものが、自らの目標を達成するための最適な手段であるか否かをいち早く認識してもらうこと、それが私に課せられる主な仕事です。

1991 年のバブル崩壊以降、日本人の海外留学に対する考え方はどのように変化しましたか？

SNS の発達により、我々の受講生も個々の教育ニーズを満たすため、より多くの適切な情報にアクセスする機会を得ています。そうした中で見られる傾向として、彼等は卒業後のキャリア開発のために、最高水準の教育を求めていることです。特に資金援助が得られない留学希望者層は、自分にとって最適な大学院にのみ、出願する傾向が強く、私はこれを“all-or-nothing application strategy”と呼んでいます。10 年程前に私の元へ留学相談に来られた方々には、実際のところ”留学すること”や”海外に住むこと”を（教育内容以上）重視する留学希望者が多く見られました。

ご経験から海外留学の一番の効果は、何だとお考えですか。

留学希望者は心の何処かで、“留学は全ての問題を解決する万能薬ではない”という事を理解はしているものの、いざ自分の現状を変えるために、目に見える効果を留学に求める傾向が依然として、見られます。具体的には、進学や就職活動を有利にするために、留学経験を生かし、TOEIC や TOEFL スコアの向上へと役立てることのみ重きを置くケースが多いことです。そうした中で、私は留学経験から得られる無形の効果、要素、リソース、価値について考えるようにアドバイスをしています。私の留学経験や留学指導者の立場から考えると、留学を通して得られる（それらの）無形なものこそ、個人的成長に欠かせないものだと思います。すなわち、個々の留学経験は、語学力を向上させたり、学術目的を達成させるだけでなく、日々の社会生活の中で、個人の成長をサポートします。私は「個人の成長の場としての留学」という大事なメッセージをこれからも発信し続けていきたいと思っています。



Japan Association for Language Teaching Study Abroad SIG

全国語学教育学会研修研究会

[http://jalt-sa.org/PDF/7-2Satori\(J\).pdf](http://jalt-sa.org/PDF/7-2Satori(J).pdf)